

射水市内小学校で 薬物乱用防止教室を開催



射水更生保護

発行・編集

射水保護司会
会長 米澤 治夫
TEL 0766-52-4321
〒934-8555
射水市本町2丁目10番30号
射水市福祉保健部 社会福祉課内



平成二十五年度の新規事業として、射水市内全小学校六年生を対象に薬物乱用防止教室を開催することを決め、射水市教育委員会と話し合いを重ねました。子どもたちにわかりやすい内容のDVDを作成し、マンガ形式の副読本を準備し提供しました。

各学校での実施活動は市内三地区のライオンズクラブ（小杉・新湊・大門）が旧市町村小学校を担当し、数回の合同講習研修会を開催して取り組み、市内十五小学校のうち、今年度は十三校で開催し、薬物乱用防止と違法薬物の怖さを伝えました。

薬物乱用に関するテレビ・出版物などのマスキミを通じ、芸能人やタレントが薬物との関連を報じられるなど、様々な情報が日常生活の中に氾濫しており、子どもたちは日々誘惑にさらされています。最近では覚せい剤などの薬物も簡単に手に入るようになっており、普段から関心をもって対処するこ

『更生保護サポートセンター射水』

〒939-0234 射水市二口1081番地
射水市役所大門庁舎 車庫棟 2階

電話：0766(52)7696
FAX：0766(52)7697

ホームページURL：hogosi.com
E-mail：imizuhogoshikai@gmail.com

月曜日から金曜日
午前9時30分～午後3時30分まで企画調整保護司が交代で常駐しています。



とが大切です。日頃から家族の話し合いを通じて、薬物乱用防止に対する正しい知識を身に付けて、私たちの身近な地域社会から薬物乱用を許さない社会環境をつくっていきましょう。

今回の事業活動に小杉・新湊・大門の三ライオンズクラブと合同で取り組み、開催できたことには大きな意義があったと思います。射水市教育委員会との協議により、薬物乱用防止教室は平成二十六年度も実施いたします。



▲ 夏野市長よりひとりひとりに表彰状を

「第六十三回 社会を明るくする運動」
作品コンテスト 三部門 優秀賞三十名表彰

平成二十五年十月五日(土)、第六十三回「社会を明るくする運動」射水作品コンテスト表彰式が射水市大門総合会館で開催されました。

射水市作品コンテストは、毎年「社会を明るくする運動」事業の一環として射水市推進委員会と射水保護司会の学校部会が中心となり、コンテストを通して「非行や犯罪のない社会の実現」を目指したものです。

射水市内の小学校十五校、中学校六校から、二千八百点近く応募がありました。

表彰式は、「社会を明るくする運動」射水市推進委員長夏野市長のあいさつに続いて、安藤企画調整課長から八木保護観察所長よりのご祝辞を代読いただきました。

体験発表では特別出演として、射水市立射北中学校三年生石黒美帆さんに発表していただきました。石黒美帆さんは、中学生生活体験発表大会射水市代表として富山県大会に出場され、富山テレビ放送社長賞を受賞されました。

続いて次の四名の方々に、第六十三回「社会を明るくする運動」作文コンテスト富山県推進委員会への推薦作品を発表していただきました。

射水市立大門小学校 五年 青井海夢
 「私の二か条」
 県推進委員会に推薦されました。

した。作品の内訳は、作文の部千八百四十三点、ポスターの部三百五十七点、標語の部五百九十二点でした。

〇作文の部 十名
 〇ポスターの部 十名
 〇標語の部 十名

ポスター・標語の入賞作品は事前に入口に展示しました。

◇ポスターの部

小杉小	六年	石黒良華
堀岡小	五年	林泰志
放生津小	六年	竹内優

◇作文の部

放生津小	六年	加治芹菜
大門小	五年	青井海夢
東明小	六年	青野夏夕
歌の森小	六年	石塚晴香
大門小	五年	堀井小葵
大門中	二年	川口七海
新湊南中	三年	渋田莉菜
射北中	三年	酢美沙紀
新湊中	三年	萩原有彩
小杉南中	二年	井川愛理

射水市立放生津小学校 六年 加治芹菜
 「当たり前を大切に」
 加治さんの作品は富山県推進委員会から中央に推薦されました。

射水市立大門中学校 二年 川口七海
 「祖父から学んだこと」
 県推進委員会に推薦されました。

射水市立新湊南中学校 三年 渋田莉菜
 「人間関係をうまく築いていくために」
 県推進委員会に推薦されました。

発表者それぞれが、社会の中での自分のあり方について考えたり、身近な人から学んだりする純粹で真面目な姿勢・考えが、聴いている私たちの心の奥に残る発表でした。



◇標語の部

新湊小	四年	竹内魁
東明小	五年	荒川輝来利
歌の森小	四年	吉田萌
新湊小	六年	安吉美歩
塚原小	五年	宮袋礼央
放生津小	六年	林宏海
太閤山小	五年	貝淵美咲
下村小	五年	宮腰芽衣
小杉南中	一年	廣田詩織
新湊中	三年	萩原有彩

大門小	五年	松田唯花
歌の森小	五年	杉山采佳
東明小	五年	山下梨々花
塚原小	五年	金桃夏
大門小	五年	大島麻耶
東明小	五年	矢後円
小杉南中	三年	加藤天音

富山県更生保護サポートセンター運営協議会に参加して



▲ 右端：八木真一富山保護観察所長

平成二十五年十二月十六日富山保護観察所により、富山県サポートセンター運営協議会が滑川保護区サポートセンターで開催され、射水保護区からは米澤会長、五十嵐副会長、高松事務局長、熊谷・室田企画調整保護司の五名が参加しました。
施設見学の後、市民交流プラザ研修室で運営協議会および情報交換会が開催されました。
出席者は県内十一保護区の会長、副会長、事務担当者、滑川・氷見・射水は企画調整保護司も出席しました。観察所からは八木富山観察所長・安藤企画調整課長・藤田観察官・川原会計係長の四名が出席され、参加者は総勢三十二名でした。

法務省から、全国の更生保護サポートセンター未設置の保護区に対し、現状より二倍の設置呼びかけがあり、安全・安心な地域社会を目標に多様な機能・役割など、地域における更生保護活動や拠点機能の充実を目指したサポートセンターの更なる開設に向けた協議が行われました。

三保護区の運営状況や課題について、運営経費の補助、ホームページ作成、センター活動費の増額、企画調整保護司の確保や役割、および在り方についてなどの意見が出されました。企画調整保護司と一般保護司との情報量の格差の問題もあり、三保護区それぞれ対応が行われ、また悩みもあるようです。サポートセンター未設置保護区からは、企画調整保護司の定数、センターの必要経費や活動経費、調整保護司の選考方法、会計処理

についてなど、多様な質問や意見があり、活発な意見交換が行われました。
企画調整保護司の研修が今後更に必要であると感じました。
(五十嵐記)



岐阜県もとす地区広域保護司会の皆様が更生保護サポートセンターいみずへ来訪



十一月二十六日岐阜県もとす地区広域保護司会の皆様を米澤会長、五十嵐副会長、川口副会長、高松事務局長がお迎えしました。施設見学後大門庁舎会議室に移り、お互いの活動を紹介、「サポートセンターいみず」の開設にあたっての準備や機器・設備、運営方法や小学校での薬物乱用防止教室の実施までの経緯など熱心に質問されました。



「更生保護サポートセンター射水」だより

新中孝子

開所から一年が過ぎ、サポートセンター射水も色々なところに発信され、県外からも見学者が訪れました。

社会貢献活動の情報交換・薬物乱用防止教室の連絡の場として機器の保管をしています。何よりも、対象者との面接場所として利用されることが増え喜んでいきます。

これからも利用しやすく気軽に立ち寄り、あたたかい笑顔のある場所でありたいと思います。

一度顔を出してみてください。みなさんのご意見をお待ちしています。



▶ レイアウトが変わりました





射水市更生保護女性会だより

湖南学園で学んだこと

秋晴れに恵まれた十月二十九日「湖南学園」を二十九名が視察研修に訪問した。学園の名称の由来は発足当初、日本海沿岸に位置する「河北潟」という湖の南岸に設立されたことによるとのこと。

二階建ての院内を案内していただき会議室で係官から、入院から出院までの課程及び、設立から新鋭工事完了までの説明を受けた。

湖南学園は非行があって家庭裁判所で少年院送致された少年のうち、その問題性が比較的軽く早期改善の可能性が大きい少年を収容して矯正教育を行う施設で、今は金沢市郊外の静かな環境に建っていた。

心身共に健康なひとつづくりを目標に「短期教育課程、短期生活訓練」の二つの処遇過程があり、教育内容は生活指導・教科指導・保健体育・特別活動ときめ細かく、非行に陥った少年が完全反省し更生できる学院であると感した。

「這えば立て、立てば歩めの親心」から道を外れた少年たちに指導されている係官の苦労話は、親以上に更生を願う強い思いを感じた。しかし、出院が決まっているのに迎えにこない親がいると聞き大変驚いた。

社会・親・本人と見えない責任を問うても答えの出ない現代社会情勢の中で、ささやかではあるが更生保護について理解を深め、必要とされる更女会員として他人に委ねることなく、日々活動を続けて行かねばと強く感じた研究だった。



射水市更生保護女性会

全体研修会開催

平成二十六年二月十七日射水市大門庁舎三〇一号室において会員多数参加のもと有意義に開催された。

はじめに道古会長の開会のあいさつ、続いて保護司川口和香子氏による事例

発表「薬物と少女」と題して話を聞いた。

内容をまとめると、十九歳の少女が暴力団関係の男性と交際中、シンナーからはじめて多くの薬物を使用したことにより、歯はボロボロ、不妊状態になった。矯正施設で更生するが、退園するとまた元に戻り、親兄弟とも絶たれた中で唯一自動車免許を取り、仕事はしているが彼とは縁が切れていない。現在二十六歳になっているが、自分と闘いながら一生懸命生きている。毎年賀状が来て慕ってこれると、話された。

次に私たちの知られざる世界、女子刑務所についての話をされた。閉ざされた鉄扉の向こうにある受刑者の生活、受刑者の罪名のトップは「覚せい剤取締法違反」だそう。その背景には、男にそそのかされ、利用された女、またダイエットのためなど軽い好奇心から罪を犯す女が多いと受刑者を見守る人は言っている。男との軽いノリ、タバコを吸うような感覚で薬に手を出す、一度使うと依存状態になる。更生への第一歩は自らの心にある。仕事につき、独り立ちして社会復帰を願いたい。厳しい現実の話を聞き、ひとりひとりの人生のために、皆で支えあってほしいと結ばれた。

薬物乱用は縁のない世界のことと思っていたが、好奇心や、例え友人知人からの誘いがあっても絶対しないよう家族、地域へ伝えていきたい。

受賞おめでとうございます

◆法務大臣感謝状

梅野ゆき江

◆日本更生保護女性連盟会長表彰

森田 英子

◆中部地方更生保護委員会委員長感謝状

池田なか江

◆中部地方更生保護女性連盟会長表彰

西野 慶子

道古 正子

◆富山保護観察所長感謝状

竹内美智子

是松 好美

森田 則子

澤田みや子

尾山 範子



◎平成二十五年事業の概要

1月12日 (平成二十六年一月〜二月)
富山養得園へ給食活動
(放生津)

19日 富山養得園へ給食活動
(堀岡・作道・片口)

26日 富山養得園へ給食活動
(七美・海老江・本江)

22日 市更生保護女性会役員会
29日 県更生保護女性連盟理事会

2月17日 射水市更生保護女性会
全体研修会

子育ては地域育てにつながっている

平成10年から 子育て支援活動を展開

地域の保育園や児童館、支援センターへ出かけ、絵本の読み聞かせ・紙芝居など地域のおばあちゃんとしてホットな笑顔あふれるまちづくりをめざして、活動しています。

次世代を担う子供たちの 支援やサポート

余り気張らず、構えず普段着の姿勢で。気がついたら、気になったら活動することを会員一人ひとりの意志に委ねています。

◆ 子育て支援活動紹介 ◆

—— 放生津地区更生保護女性会 ——

野菜スタンプで年賀状作り(放生津保育園)



じょうずにできたよ!

「にんじん・だいこん・かぶら」を歌って、ダンスを踊り、野菜スタンプの年賀状作りも盛り上がり、私たちが楽しいひとときを過ぎました。(大伴記)

玉ねぎ、レンコン、きゅうり、なす、ピーマンなどの野菜が切り方によっていろいろな形になっていくのを、子どもたちは目がかがやかせてみています。
興味を持った子どもたちは早速、画用紙にスタンプを押して遊びました。イメージがふくらみ、玉ねぎで曳山の車を描いたり、ピーマンが花になったりレンコンで怪物を描いたり、「ほら、魚がいっぱい!」となすとアスパラを組み合わせている子。
「流れ星やね」と、ししとうを並べてにっこりしている子どもなど。変形する野菜の面白さに意欲をかきたてられ、メルヘンの世界へ入っていきます。想像以上に芸術的作品がたくさん出来上がりました。互いの作品を見せ合い、いよいよ年賀状に挑戦です。大好きな家族に届ける年賀状は、家族への愛と感謝の心を込めるように話し完成させました。
満足そうな顔、かお! スタンプの面白かったこと、難しかったことなどを話し、野菜を作っている方への感謝を忘れないようにと教えました。



お茶ごっこ(八幡保育園)



「手前に2回、まわします。」

「お先に」「どうぞ」「ありがとう」を、お茶ごっこを通して学ばせることを目的としています。



射水市更生保護女性会だより 113号まで

『脱法ドラッグ』実は「麻薬」



薬物乱用防止の現状と問題点

「ハーブ」や「お香」、「合法」といった言葉で『脱法ドラッグ』の危険性が偽装されてしまっている中、警戒心を持たないままこうした薬物を使い、急性中毒に見舞われる事故が急速に増えています。平成二十四年には全国の精神系医療施設患者の原因薬物では、一位覚せい剤、二位脱法ドラッグ、三位鎮静剤向精神薬と、従来の規制薬物を凌ぐ勢いです。

この『脱法ドラッグ』と呼ばれる製品に使われているのが、合成カンナビノイドで、天然大麻中のデルタ9テトラヒドロカンナビノールに似た化合物です。この合成品は天然品に比べては



造にほんの少し手を加えれば実に多様な類似物質を生み出すことが可能です。そのため、市場に次々新たなものが登場しています。麻薬そっくりの効果をもたらし、麻薬と同じ危険性を持っているにもかかわらず、現時点では取締法の対象になっていないため、直接これを取り締まる

るかに危険な症状をもたらすことがあります。この他『脱法ドラッグ』は、覚醒剤やコカインに似たもの、LSDやマジックマッシュルームのような幻覚作用をもたらすもの、そしてMDMAに似た作用をもたらすペラジン類や合成オピオイドなど、その化学構造

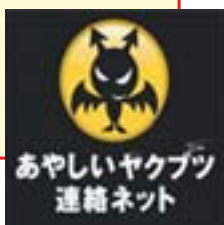


県外視察研修 東海北陸厚生局麻薬取締部へ

十月二十二日、名古屋合同庁舎で東海北陸厚生局麻薬取締部捜査第課長中内正人氏から「麻薬取締部の役割と現

ことができないうのが『脱法ドラッグ』です。そのため、もっと効果的な規制する方法はないか、と考えるのが一般的です。その手法の一つとして期待を寄せられているのが、「包括規制」と呼ばれるものです。これはある新しい規制物質を規制する際に、その類似薬物群もまとめて規制対象にしてしまうという手法です。「業者とユーザーのイタチごっこは宿命」とは考えたくありません。(三宅記)

あやしい薬物連絡ネット
<http://www.yakubutsu.com/>
 厚生労働省の委託を受け、指定薬物又は偽造医薬品、不正な医薬品に関する情報収集、指定薬物や違法ドラッグの危険性の啓発、薬物で困ったときの相談窓口などの情報提供を行っています。



るほど熱心な質問が相次ぎ、実り多い研修会となりました。また今後施行される「刑の一部執行猶予」では薬物事犯者も対象になってくることから、薬物依存症と依存症の治療についてもお話いただきました。当保護司会からは、予定時間を超えるほど熱心な質問が相次ぎ、実り多い研修会となりました。



● 部会だより ●

◇総務部会

10月15日 第二回理事会を開催

(報告事項)

- ・サポートセンター射水
和室の障子張り替えについて

(協議事項)

- ・当面の行事予定及び更生保護関係
行事への出席依頼
- ・定例理事会の開催について
- ・射水市更生保護協力会の企業会費
の集金依頼について

12月17日 第三回理事会を開催

(報告事項)

- ・新任・退任保護司について
- ・岐阜県もとす地区広域保護司会視察
研修御礼の手紙披露
- ・新規事業計画の提出期限について
- ・川口和香子氏藍綬褒章受章祝賀会
について
- ・下期保護司候補者検討協議会の
開催日程について

◇協力組織部会

7月17日

- ・ライオンズクラブと第一回『薬物
乱用防止教室』開催(新湊小学校他、
25年12月までに市内8校、26年3月
末までに5校、合計13小学校で実施)
- 8月7日

富山県就労支援推進協議会参加
(富山県総合福祉会館)

8月7日

富山県刑務所出所者等就労支援
連絡会参加(富山県総合福祉会館)
9月12日

中部更生保護ボランティアフォー
ラム参加(名鉄ニューグランドホテル)

◇学校部会

「社会を明るくする運動」作品コ
ンテスト(10月に表彰式実施)に、
市内小学校十四校、中学校六校から、
作文・ポスター・標語の応募をいた
だきました。応募総数は二千七百九
十二点でした。学校および児童生徒
の皆さんのご協力に厚くお礼申し上
げます。

作品コンテストは、「社会を明る
くする運動」の一環として実施して
います。作品の募集を通して、犯罪
や非行のない社会をつくるために、
小・中学生の一人ひとりが参加する
きっかけになることを願っています。

◇研修部会

昨年秋季に「日本更生保護学会」が
創設され、いよいよ本格的に「更生
保護制度」が専門的に研究され始め
ようとしております。対象者の「保
護観察」を初めとする私達の活動は
「日本の刑事政策を担う」重要なも
のであることは御周知の通りであり
ます。

研修部としての今後の在り方を考

える時期でもありましよう。更生保
護制度の中核が「保護司活動」にあ
るならば、「保護司による提案」も
しかるべきでありましよう。皆さん
と一緒に考えていきたいと思ってお
ります。

今後も「定例研修・自主研修」を
基本とし、その中で「新たな事業を
展開」も考えていきたいと研修部一
同考えております

◇地域活動部会

社会内処遇の一環として、社会貢
献活動が行われるようになり、私た
ち保護司も少しづつ慣れ親しんでき
ています。

こんな中、今回は女性の優しさを
きめ細やかに注目し、女性観察官
一名、女性保護司三名、更生保護女
性二名が男性保護司に混じり、お
茶のサーブや車いす、浴槽の清掃
をK老人ホームで実施し、社会的一
体性の維持を体験しました。職員の方
からも大変喜んでいただきました。

◇広報部会

2月5日 県広報部会

12日 県広報編集委員会

28日 射水更生保護第16号発行

随時 射水保護司会ホームページ
(アドレスは<http://hogosi.com>)
で情報発信・更新を行っていま
す。

◆秋の褒章(平成二十五年十一月三日付)
藍綬褒章 川口和香子

更生保護授彰者紹介

●法務大臣表彰

三宅陸夫

●全国保護司連盟会長表彰

渡辺八重子

●全国保護司連盟理事長表彰(内助)

米沢良子

●中部地方更生保護委員会委員長表彰

多賀正夫

●中部地方保護司連盟会長表彰

塚本秀樹 林 弥生 山口花子

●中部地方保護司連盟会長表彰(内助)

川口彰

●富山保護観察所長表彰

池内興舟 片林政敏 栗原彰

●富山保護観察所長感謝状

高橋禮子 石村むつみ

●富山県保護司連合会会長表彰

海内和子 谷川美和子(家族功労)

●富山県保護司連合会会長表彰

澤 英明 熊谷正克 山本雅幸

●富山県保護司連合会会長表彰

高島辰夫 長徳 一 堀 浩昭

今年度各方面で活躍を認められ
受賞された保護司の紹介

●射水市社会福祉協議会会長表彰

谷川義昭 海内貞行

●射水市政功労賞

米澤治夫 大伴せつ子 三宅陸夫

●富山県社会福祉協議会会長表彰

高橋禮子

事務局この一年

平成25年
9月2・3日

SST研修会(高松)
薬物乱用防止教室(小杉小)
19日～27日まで
射水市作品コンテスト

優秀作品展示(新湊庁舎)
薬物乱用防止教室(大島小)
20日
社会貢献献活動
26日
(富山市岩瀬浜海岸)

27日～10月4日まで

10月5日

射水市作品コンテスト
優秀作品展示(小杉庁舎)
第63回「社会を明るくする運動」
射水市作品コンテスト表彰式
第一回企画調整保護司会議
10日
社会福祉大会
11日
薬物乱用防止教室(金山小)
15日
第二回理事会
22・23日
先進地視察研修研修

28日
薬物乱用防止教室(太閤山小)
11月1日
射水市政功労賞表彰式
(米澤・大伴・三宅)

8日
富山県福祉大会(県民会館)
14日
富山県更生保護大会(魚津)
19日
第二期地域別定例研修会
自主研修

26日
岐阜県もとす地区保護司会
サポートセンター視察研修

平成26年
12月1日

射水警察署歳末警戒出発式
薬物フォーラム(富山市)
16日
県内更生保護サポートセン
ター協議会(滑川)
17日
第三回理事会

平成26年
1月7日

保護司退任者法務大臣感謝状
伝達式(川井・炭谷・山口)
14日
射水市教育委員会教育長との面談
16日
高岡保護司会サポートセン
ター見学・意見交換

17日
薬物乱用防止教室(東明小)
21日
薬物乱用防止教室(下村小)
23日
薬物乱用防止教室(大門小)
24日
サポートセンター新規設置
に係る検討協議会(富山)
28日
新任保護司候補者検討協議会
(サポートセンター)

2月4・5日

中部地方保護司研究
協議会(谷川・高橋)
30・31日
第四期地域別定例研修会・
自主研修

平成26年
3月11日

5日
新年懇親会及び歓送迎会
6日
薬物乱用防止教室(片口小)
15日
川口和香子保護司藍綬褒章
受章祝賀会
26日
社会貢献活動(ことぶき苑)
特別研修会

川口和香子氏の
藍綬褒章受章を祝う

平成二十五年度秋の褒章で藍綬褒章を受章された川口和香子氏の祝賀会が、平成二十六年二月十五日大門総合会館で開かれました。

川口氏は、平成二年より保護司、十年より県薬物乱用防止指導員となり現在は射水保護司会副会長として更生保護活動にご尽力されています。各団体の方々からご祝辞の後、夫の彰さんとともに孫の牧山嘉彰さんと香菜子さんから花束を贈られ、「対象者と同じ目線でゆっくりと話を聞き、笑顔で迎えて笑顔で見送る、再び笑顔で会えることを願って更生に努めてまいりました。」とお礼の挨拶をされました。



▲ お孫さんから花束を贈られた川口さん 右から2人目

保護司の異動・退任・敬弔

●保護司の異動 (敬称略)

◇新任保護司 (25年12月20日付)

新湊 中田 政一
小杉 河畑 富美子

平野 洋子
池松 光春

林 美貴子
大閤山 (25年12月20日付)

炭谷 幸子
大門 川井 實

小杉 山口 花子
敬弔 甲 (26年1月)
放生津 渡辺 八重子

編集後記

保護司は今も昔も立ち直ろうとする人に寄り添う地道な仕事です。法務省保護局は、ツイッターで「更生保護」についての情報配信をしています。法務省保護局で検索してください。射水保護司会(sougosai.jp)ホームページのトップページからでも内容をご覧いただけます。

お知らせ
保護局Twitter
フォローしてみませんか?
アカウント名: MOJ_HOGO
アカウントID: 10000000000000000000
更生保護の気になる情報を配信中!
知りたかったことがいっしょに! 皆さんのフォローしてくださいね!!